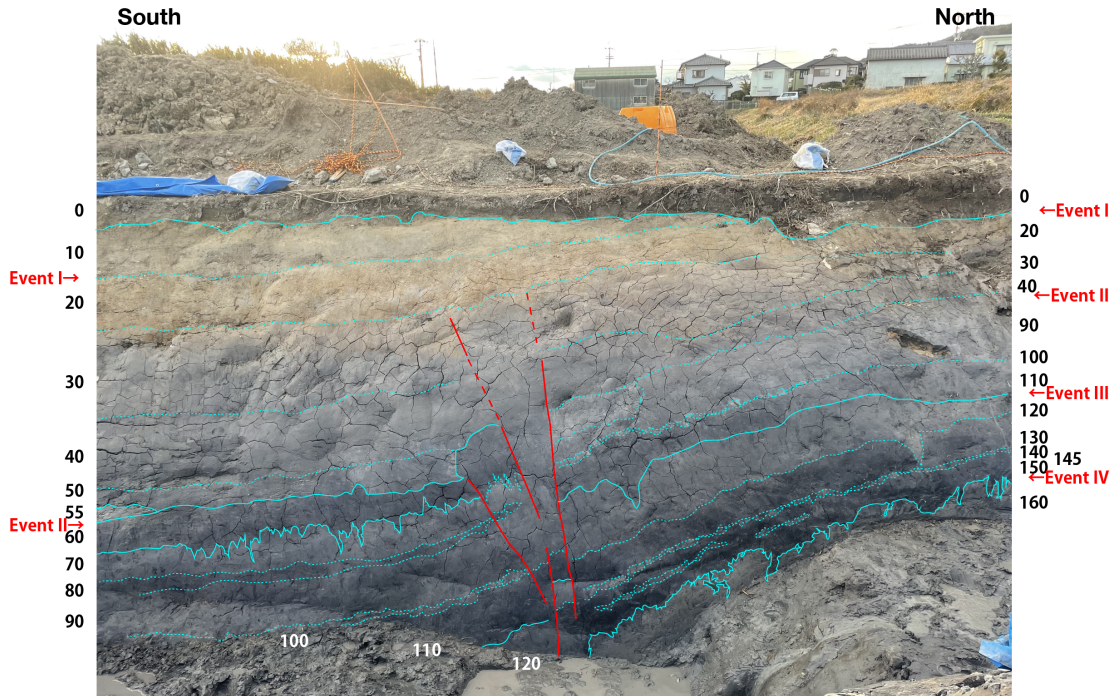
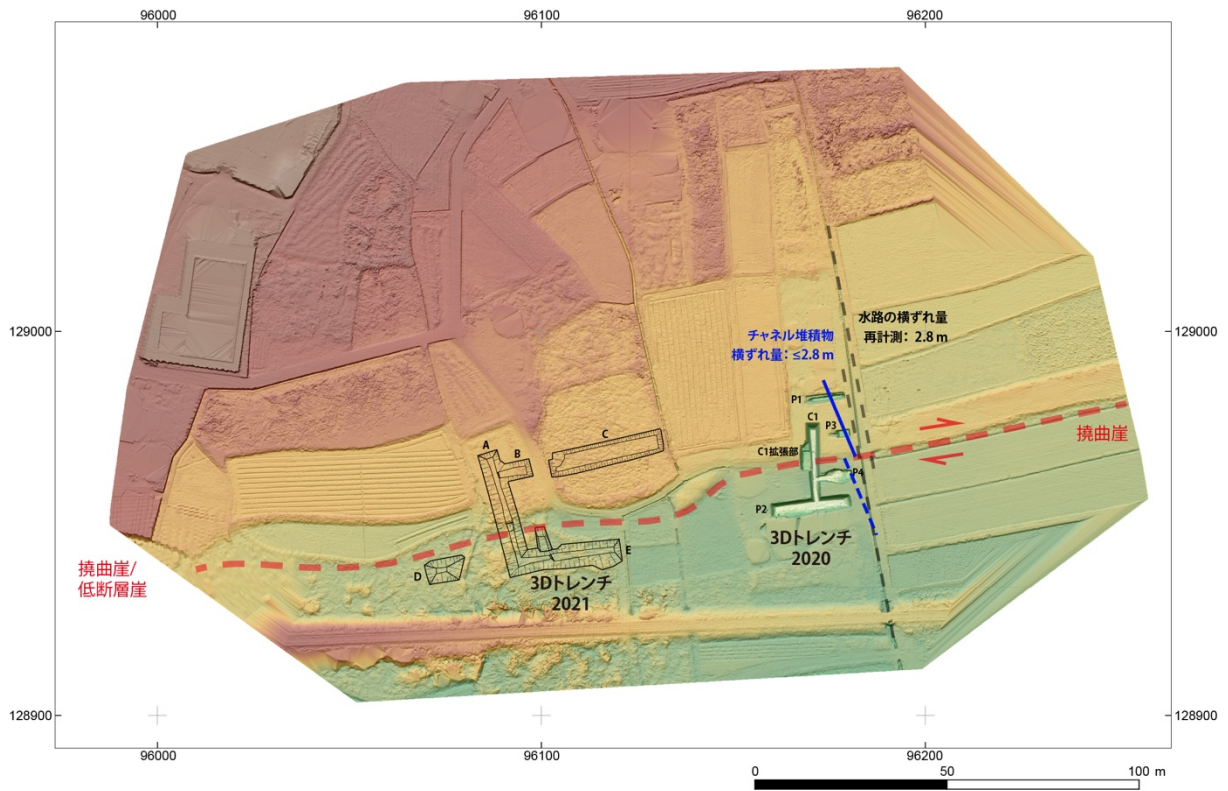
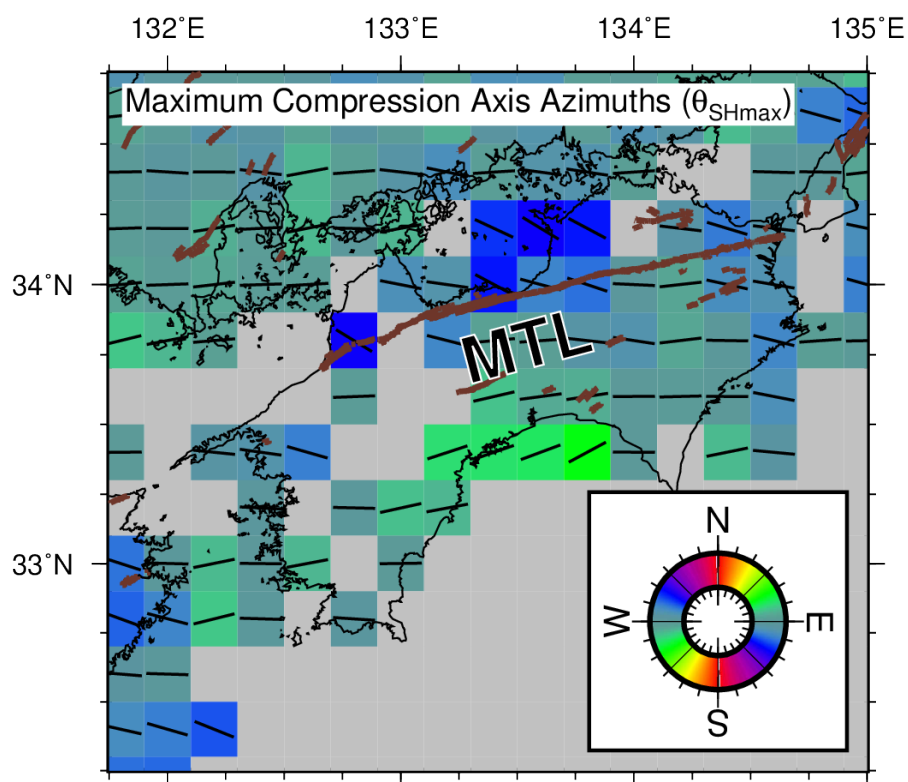


1 変位履歴に基づく連動性評価のための地形地質調査



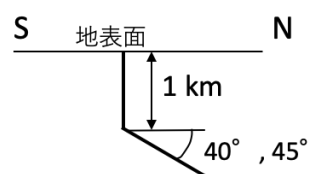
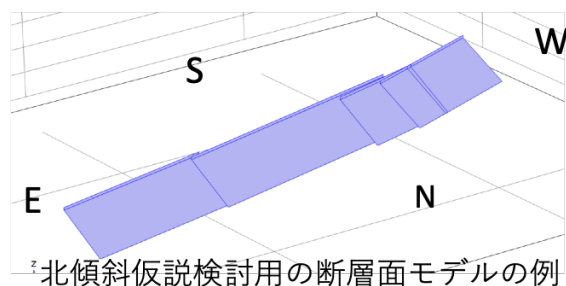
徳島県鳴門市阿波大谷地区における 3D トレンチ。(上段) ドローン LiDAR による 0.1m DEM の地形陰影図とトレンチ掘削位置。(下段) 断層直交トレンチ西壁面の断層とイベント解釈。番号は地層番号。

2 地殻応力場推定のための微小地震解析

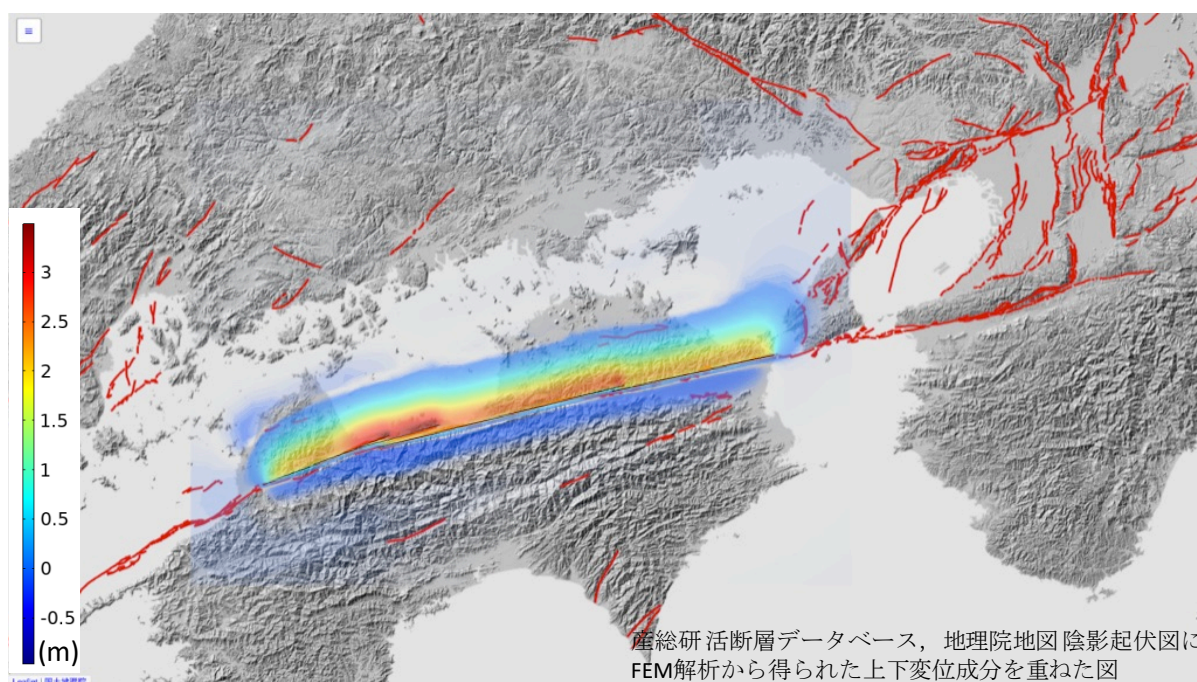


全国応力地図による、四国地域の水平主圧縮軸方位。色と棒で水平主圧縮軸方位を表示した。水平主圧縮軸は概ね東西方向を向いている。燧灘から香川県西部においては、中央構造線を境に水平主圧縮軸方位が異なる。中央構造線南部に比べて、北部では30度ほど時計回りに回転し、北西-南東方向を示すようになる。なお、全国応力地図は緯度・経度とも0.2度間隔（南北方向約22km、東西方向約18km）のグリッドを敷いて得られたものであり、それ以上細かいことは議論できないことに注意を要する。

3 三次元 FEM による断層モデルの高度化

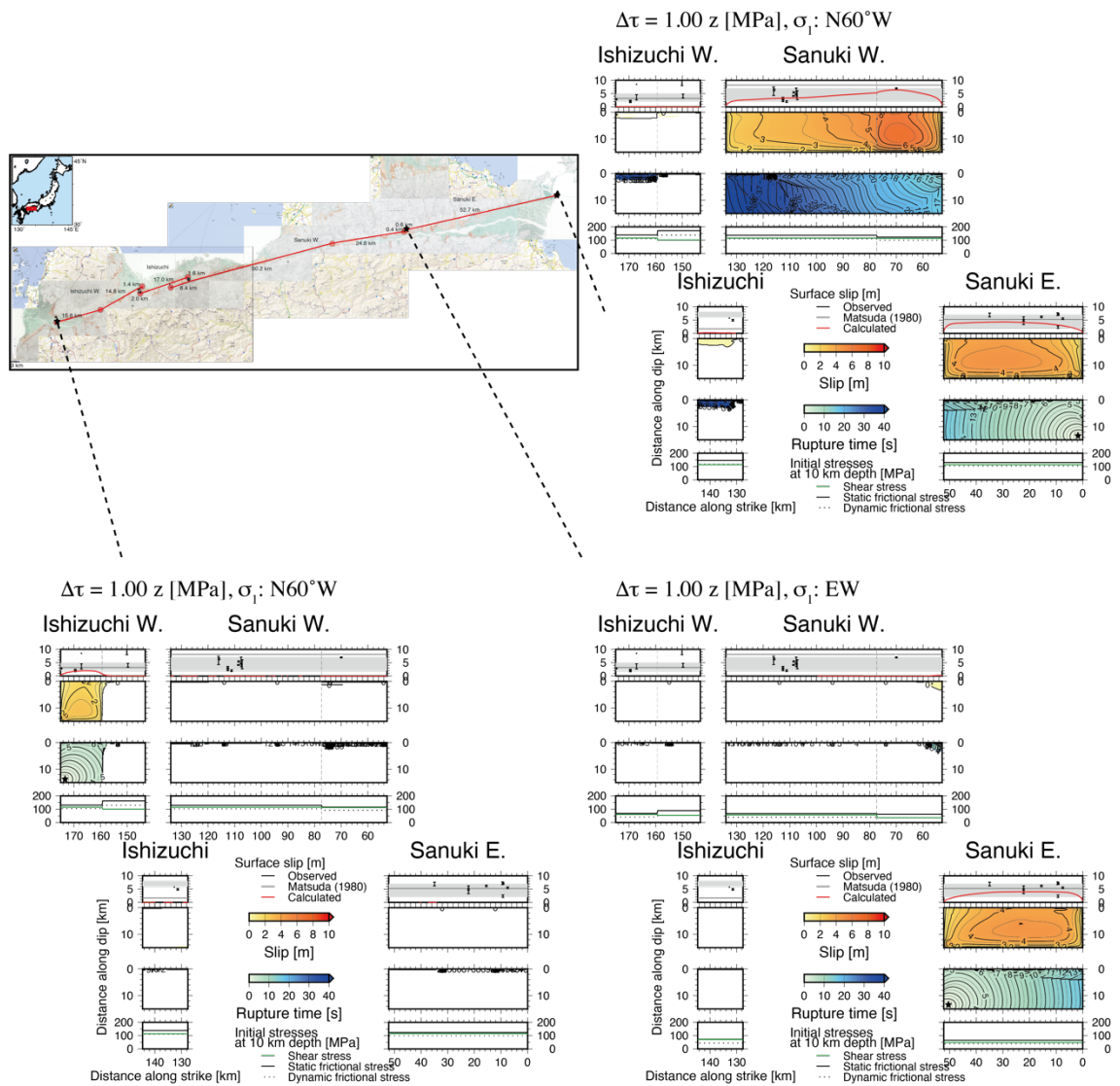


全ての区間について一定の傾斜
最大主応力方向：N45Wから東西まで15° 刻みで変化



断層面の地下形状や応力方位を変化させ、三次元有限要素法（FEM）による断層変位計算を実施した。その結果、活断層 MTL が北傾斜であるとする仮説は、地形の起伏を説明できないことが明確になった。例えば、燧灘での隆起、断層線南側の石鎚山脈側での沈降など、非現実的な変位・変形様式となる。

4 動的破壊シミュレーションによる連動性評価



1回の活動によるすべり量分布を満たす地震シナリオの例。